が欠けていることである。ＢＳＣ（バランススコアカード）が、この溝を埋め、戦略とＩＴを結ぶ仕掛けとして有効な手段であり、ＩＴを核に戦略策定と実行を統合・管理する上で欠かせない。

第６回（11月９日）

講義タイトル

「ベンチャービジネスにおける技術経営」

講師

大阪大学大学院経済学研究科
教授　**小林敏男 氏**

技術シーズからのベンチャービジネス創出の事例を紹介し、自身が関与しているベンチャービジネスの代表二人に各社のケース分析を行ってもらった。

大学発ベンチャー創業/操業におけるMOTと題し、優れた技術シーズを持つ大学発ベンチャー創出をどのように進めてきたかを説明、事業立ち上げにあたってのプロジェクト・マネジメント手法の導入等、ＭＯＴ(技術経営)のあり方についての報告があった。

事例報告者

・㈱アイキャット代表取締役ＣＥＯ　西願雅也氏
・㈱サインポスト代表取締役ＣＥＯ　黒川敦彦氏

第７回（11月16日）

講義タイトル

「クラスターとイノベーションシステム」

講師

㈱三菱総合研究所
主任研究員　**石川　健 氏**

「クラスター」の研究はまだ浅く定義も明確にされてないのが現状だが‘ある特定の分野に属し、相互に関連した企業と機関からなる地理的に近接した集団’とする。クラスターの有効性を生産性向上、イノベーションの誘発、新規事業化の促進の観点から、九州シリコンクラスターを例に解説される。

また、イノベーションについては基礎研究・試験研究･応用研究･技術開発の違いを認識、クラスター内での役割を分担し、連携をとりながら大きな統一目標を掲げた産業戦略の実現をめざすべきと力説。

第８回（11月30日）

講義タイトル

「ベンチャーキャピタルと産業再生」

講師

奈良先端科学技術大学院大学
助教授　**桐畑哲也 氏**

日本の産業再生の有力手法の一つとして、先端科学技術をベースとしたベンチャー企業の輩出が期待される。ベンチャー創出のフレームワークは起業家とそれを支えるパートナー、支援環境が整わねばならず、そのサイクルの好循環が欠かせない。日本での環境整備の遅れを指摘する。

有力パートナーとして、ベンチャー・キャピタルが欠かせないが、豊富な資金力だけでなく、ビジネスプラン、経営チーム、技術を目利きしたり、モニタリング、経営支援などのサポートも必要。

第９回（12月７日）

講義タイトル

**「日本における
ベンチャー創造の実践と課題」**

講師

エイケア・システムズ㈱
代表取締役　**有田道生 氏**

ベンチャー企業を起こすため何を考えておかねばならないかから、実際の起業のプロセスで順次検討すべきことを説明。

資金調達のためにベンチャー・キャピタルとの付き合い方、投資家を知ることの大切さを強調。マーケットの再認識・検証などを通して信用を確立することが成功の鍵である。会社を創る苦労だけでなく、経営する苦労があることを忘れずにマネジメントの仕組みを確立することが重要。また、株式会社設立の本質を理解していなかった反省や事業拡大プロセスにおける追加資金調達、戦略的Ｍ＆Ａ、株式公開などの課題を自身の体験をベースに順次解説が加えられた。

第10回（12月14日）

講義タイトル

「ＭＢＯと事業再生」

講師

㈱三菱総合研究所
主席研究員　**小松原　聡 氏**

日本企業のこれまで辿ってきた事業再生の背景から説き起こし、現状での課題を明確に指摘。成長戦略として、事業の早期着手、迅速な再生が不可欠であり、キャッシュ・フロー経営への転換が必要。グループ経営における本社機能を見直し、不採算・コア事業や採算のあるノンコア事業の整理までグループシナジーが発揮できるよう事業構造改革が要求される。そこで事業構造改革の有効な手段の一つとし